

派遣留学生帰国報告書

* 帰国(復学)後の情報を入力してください

記入日	2019.09.05
所属学部・ 研究科・学府	融合理工学府
所属学科・専攻	創成工学専攻デザインコース

1. 留学先について(1校目)

留学先大学名	ケルン応用科学大学							
留学先所属学部等	Integrated Studies in Design							
留学期間	出発日	2018/9/6	入学日	2018/9/10	修了日	2019/2/28	移動日	2019/2/15
住居	大学(紹介)の寮・アパート	<input type="radio"/>	民間アパート	<input type="radio"/>	その他()			
	通学時間	約30分				On campus		
	通学方法	トラム・バス						
	居室スペース	<input type="radio"/>	個室	()	人部屋	その他()		
	共有スペース	<input type="radio"/>	完全個室	キッチン	トイレ	バス	リビング	その他()
食事	自炊	50 %	学食	20 %	外食	30 %	その他 ()	
保険	海外旅行保険(名称)	AIG損保						
	派遣先大学指定の保険(名称)	TK insurance					<input type="checkbox"/> 強制加入	
	その他	現地の健康保険は加入任意。月90€(確か)。ほぼ全部の医療機関にキャッシュレスでかかれるようになる。						
渡航ルート	ex.) 成田⇄シカゴ(飛行機)⇄ウイスコンシン(電車)							
	羽田 ⇄ フランクフルト(飛行機) ⇄ ケルン(電車)							

1. 留学先について(2校目)

留学先大学名	ミラノ工科大学							
留学先所属学部等	PRODUCT SERVICE SYSTEM DESIGN							
留学期間	移動日	2019/2/16	入学日	2019/2/19	修了日	2019/7/31	帰国日	2019/8/10
住居	<input type="radio"/>	大学(紹介)の寮・アパート	<input type="radio"/>	民間アパート	その他()			
	通学時間	約40分				On campus		
	通学方法	電車						

居室スペース	<input type="radio"/>	個室	()	人部屋	その他()						
共有スペース		完全個室	<input type="radio"/>	キッチン	<input type="radio"/>	トイレ	<input type="radio"/>	バス	<input type="radio"/>	リビング	その他()
食事	自炊	50%	学食	5%	外食	45%	その他	()			
保険	海外旅行保険(名称)	AIG損保									
	派遣先大学指定の保険(名称)										<input type="checkbox"/> 強制加入
	その他	は忘れてしまいましたが現地の健康保険に任意で入れます。年単位の申し込みなので割高									
渡航ルート	ex.) 成田⇄シカゴ(飛行機)⇄ウィスコンシン(電車)										
	ケルン ⇄ ミラノ(バス) ⇄										

2. 留学にかかった費用について

総費用	約300万 円										
出どころ											
自費	<input type="checkbox"/>	貯金	円	<input type="checkbox"/>	アルバイト	円	<input type="checkbox"/>	その他	円		
援助	<input type="radio"/>	両親	約100万 円	<input type="checkbox"/>	家族・親戚	円	<input type="checkbox"/>	その他	円		
奨学金	<input type="checkbox"/>	JASSO	円	<input type="radio"/>	その他名称(トビタテ)	201万 円					
その他	<input type="checkbox"/>	千葉大学助成金	円	<input type="checkbox"/>	その他()	円					

2-1. 財政管理の方法

渡航時	<input type="radio"/>	現金	10万 円	<input type="radio"/>	その他(日本のクレジットカード)	円
留学中	<input type="checkbox"/>	海外送金	<input type="checkbox"/>	キャッシング	<input type="radio"/>	その他(現地のオンラインバンク(N26)のデビットカード)

2-2. 各費用の支払い方法

大学に払った費用	銀行送金(現地口座から) <input type="checkbox"/>					
住居にかかった費用	銀行送金(現地口座から)					
その他						

2-3. 内訳

費目	外貨金額		円貨金額	
	通貨単位			
渡航費(往復)			120,000	円
海外旅行保険			248,710	円
OSSMA			19,440	円

査証・在留許可証	約€ 150	18,750	円
住居	€ 5,250	656,000	円
食費	€ 5,500	687,500	円
通学に要する交通費	€ 250	31,250	円
教科書、教材費	€ 300	37,500	円
その他大学に支払った経費	€ 120	15,000	円
光熱費		(家賃に含まれていた)	円
その他 (ナマースクール)	€ 2,000	250,000	円
その他 (療費(建て替))	€ 500	62,500	円
その他 (旅費、娯楽費)		853,350	円
その他 ()			円

3. 学業面

履修科目名	種類 ^{ex.正規、聴講}	単位数 (ECTS)	単位互換認定 申請の有無		
			有	○	無
1 Cologne Resources	正規	1	有	○	無
2 KISD essentials	正規	2	有	○	無
3 Mentoring	正規	4	有	○	無
4 Gute Stube AG	正規	2	有	○	無
5 German for Designers 1 (basic)	正規	1	有	○	無
6 Desktop Video for International Students	正規	3	有	○	無
7 IoT at the Zoo	正規	12	有	○	無
8 Eating the Past	正規	3	有	○	無
9 DESIGN SEMINOR	正規	6	○	有	無
10 DESIGN THE COMPLEXITY	正規	0	有	○	無
11 MATTER OF IMPORTANCE	正規	6	○	有	無
12 PRODUCT SERVICE SYSTEM DESIGN STUDIO	正規	12	○	有	無

3-1. 授業科目の選択、登録方法

ケルン応用科学大学、ミラノ工科大学ともに、学習分野についての事前アンケートを元にInternational officeが履修科目案を提案してくれた。両校ともに履修科目の変更期間中に提案された授業を変更することも可能。変更しなければ履修登録される。

3-2. 授業内容、方法に関して

レベルも方針も先生によってかなりまちまちだった。研究室単位で製作を行う千葉大と異なり、大学院生も授業で製作をした。
ケルン応用科学大学では、同じエリア(アジア圏)出身の留学生に1人メンターの教授がつき、相談や大学での学習の様子などを月1回ほど共有したり、講演のレポート課題が出されるなどした。
ミラノ工科大学では特にメンターなどはつかず、履修した科目を取るだけだった。

3-3. 語学力について

両校共に基本的に授業は英語で行われるため、ドイツ語、イタリア語が使えなくても授業に大きな問題はなかった。英語は教師、学生ともにネイティブレベルの人が多く、特にミラノ工科大学ではアメリカ人やイギリス人の教師も多いため、イタリア語よりむしろ英語での会話が必須になる場合もある。
ケルン応用科学大学では、基礎のドイツ語が履修計画に含まれていたが、ミラノ工科大学では、デザインの授業と別に有料オプションでイタリア語の講座があった。
日常生活では、やはり多少の現地語は使えた方が便利。(特にイタリア)

3-4. 図書館など学内施設について

ケルン応用科学大学は、デザインのキャンパスには図書館がなかった。製作をするための施設は揃っており、それぞれの施設に担当の教師が在中するため簡単に利用することができる。大学は8時頃から22時頃まで開いているため、いつでも作業できる。購買などの施設は無い。ケルン市内の大学生は無料で球技、ダンス、格闘技などのスポーツのレッスンを好きなだけ受講できる。
ミラノ工科大学の図書館は各キャンパスにあるが、あまり大きくない。工房等の施設は充実している。オンラインのセーフティーテストと講習をクリアすると工房が使えるようになる。クーラーも扇風機も無い教室が多く、夏は大変。図書館以外の施設は18~19時には閉まってしまうため、授業後に残るにはやや不便。キャンパス内外には画材屋やコピーショップが充実している。建築学科のあるキャンパス(レオナルド)は24時間作業できる場所がある。

4. 生活面

4-1. 住居について

ケルン

ケルンは家さがしがかなり難しい都市だそう。賃貸サイト経由でも数件応募したが連絡が返って来ず、結局大学運営の賃貸の貸し借りなどが載っているFace book非公開ページを経由して、ちょうど1セメスター留学するKISDの学生の部屋を又貸してもらったことになった。水道・電気・インターネット込みで月550ユーロとケルンの中では安くはなかったが、立地が良く、一人用のフラットだったため快適に過ごせた。家具やキッチンツール、ハンガー、タオルなど家にあるものは全て使っていていいと言ってくれたので、消耗品の購入のみで済んだのがありがたかった。ただ、貸してくれたのが学生だったからか、退去後にデポジットを返してもらえらるまで3ヶ月ほどかかった。

ミラノ

ミラノもなかなか家探し難しい。加えて、全体的に治安の良いケルンと比べて不穏な通りもあるため、ミラノ工科大学に通う知り合いの意見を聞きながら家探しをした。最終的には大学の寮の空きに運良く応募できた。デザイン系の学科キャンパスがあるポビザ周辺は、雰囲気あまり良くない上に不便なので、建築学科のキャンパスの近くのDateolにある寮にした。バス・キッチン共用のシングルルームで、1セメスターで2500ユーロと、ミラノの標準的な価格だと思う。家具はベッド、椅子、机などしかないため、日用品は全て買い揃えなくてはならなかった。大学の管理なのもあってか、部屋の修理やお金関係の対応はスムーズで、イタリア語が喋れない留学生に対しても優しくかった。

4-2. 食生活について

ケルン

キャンパスの近くに学食があり、300円以下ほどで満腹になる(ただしあまりおいしくないという声も多い)。ケバブやアジア料理などのテイクアウトやスーパー、レストラン、パン屋が大学の近くにたくさんある。ケルン市内やデュッセルドルフにはアジアスーパーや日本食レストランがたくさんある。テイクアウトや出来合いのものやインスタント食品が充実していて便利だった。価格もレストラン以外は高く無いため食生活には困らない。

ミラノ

学食は高く、あまり充実していない。デザインのキャンパス(ボビザ)付近にはテイクアウトの店も多いが、ほぼ全て夕方には閉まっている。ミラノの中華街にはアジアスーパーがたくさんあり、日本の食材も入手できる。コーヒーとクロワッサンが安くおいしい。アペリティーボやピッツェリアなど、高すぎない値段でオシャレを楽しめるレストランが多いので、友達と出かけるときは便利だった。内食があまり充実しておらず、自炊することが多かった。

4-3. インターネット環境、携帯電話について

ケルン

大学のwi-fiはeduroamを使っていた。携帯電話は現地のSIMカード(ヴォーダフォン)を契約していた。(O2の方が良かったかもしれない…)

ミラノ

大学のwi-fiの接続がよく無い。携帯電話は現地のSIMカード(iliad)を契約していた。月に50GB使えたので、大学でもテザリングすることが多かった。

4-4. 服装について

ケルン

冬は意外と冷えるので防寒が必須。暖房は充実しているが、0度くらいでも半袖になって大学のドアと窓を全開にする人がいたりするので、室内でも防寒が必要なこともある。

ミラノ

TPOに合わせて服装を変える文化が特に強く、イベントがあると1日に何回も着替えるために家に帰ったりする。レストランや誕生日パーティーに行く際には普段着より華やかなものを着ると喜んでもらえる。

冬が雨季で乾燥しており、日本より寒く感じるので防寒をしっかりした。

4-6. 保険、OSSMAの利用について

飛行機の欠航と親知らずの抜歯で保険を利用した。OSSMAは特に利用しなかった。

4-7. 課外活動について

ケルン

無料のスポーツクラスでボクシングとヨガを受講した。学生主体のパーティーやシティツアー、ナイトウォークも多くあり、ケルンの散策に役立った。

ミラノ

ESNという学生団体のシティツアーなどに参加した。

4-8. 学外のコミュニティとの交流について

ケルン

ケルンではアートなどのイベントが常に開催されており、人々も気さく(日本でいう大阪人みないなイメージらしい)で、老若男女ほとんどの人が英語を使えるので、初めて知り合った現地人との交流を楽しんだ。スポーツクラスはケルンじゅうの大学生がいるため、他大学の学生と話す機会もあった。

ミラノ

イタリア語では挨拶や買い物程度の会話しかできなかったため、学外でのイベントに参加する機会は少なかった。

4-9. 日本から持参してよかったもの

お菓子、めんつゆ、ポン酢、塩昆布

醤油など有名なものは簡単に手に入るが、真の日本人しか使わなそうな食材は一層高かったり、あまり種類がなかったりする。Welcome partyで自国のお菓子を持参することを後から知ったので、持って行って助かった。

4-10. 日本から持参したが不要だったもの

変圧器は一度も使わなかった。

しょうゆはどこにでも売ってるのでいらなかった。

4-11. 現地での対人関係について気づいたこと(習慣の違い、マナーなど)

皆明るい。お店やレストランで店員さんに挨拶した方が良い。

基本的に皆日本人に対して好意的だが、同じアジア人に対して出身国によって対応を変えてくる人もいる。

ぼったくりや路上で物を売る人に日本人とバレるとしつこく付いてくることがあるので、無視するか日本人とバレないようにした方が楽。

4-12. 余暇の過ごし方

旅行

【ドイツ・ミュンヘン(観光)】2018年10月(1日間)、約1万円

【イタリア・コゼンツァ(観光)】2018年12~2019年1月(10日間)、約5万円

【イタリア・ベネチア(観光)】2019年2月(2日間)、約2万円

【イタリア・ベネチア&スペイン・バルセロナ・バレンシア(観光)】2019年3月(8日間)、約10万円

【イタリア・ローマ&フランス・パリ&スペイン・バルセロナ(観光)】2019年3月(9日間)、約10万円

【イタリア・ナポリ(観光)】2019年4月(5日間)、約5万円

【ドイツ・ベルリン(観光)】2019年5月(3日間)、約5万円

【オーストリア・ウィーン(観光)】2019年5月(3日間)、約2万円

【イギリス・ロンドン(サマースクール)】2019年7月(10日間)、約10万円

【チェコ・プラハ(観光)】2019年7月(3日間)、約4万円

【イタリア・ベネチア(観光)】2019年7月(1日間)、約1万円

【イタリア・コゼンツァ(観光)】2019年7~8月(10日間)、約5万円

* 気分転換やストレス発散法など。

日本の友達と電話
街歩き
Netflixで英語に慣れる

5. その他

5-1. 留学先大学について

ケルン応用科学大学

国際色豊かで、誰に対してもオープンな雰囲気です。自由度が高い分、質の高い製作をするには自主的な活動が必要になります。毎週金曜は全員授業がなく公開プレゼンテーションのみなので、他の授業からもたくさん学べる環境です。

ミラノ工科大学

イタリアはより専門科目に対する職人氣質が強いように感じます。製作のレベルが高く、競争的な雰囲気が強いので刺激的です。イノベーション系のデザインはあまり強くないかもしれません。授業によって「イタリア人とその他」という雰囲気も少しあるので、イタリア語を使うなどして溶け込む工夫が必要なきもあります。

5-2. 留学希望者へのアドバイス

ヨーロッパは日本と文化が異なり、さらに国によって雰囲気が大きく異なるように感じました。現地の友人を作ることが難しい場合も多くあると思いますが、やはり留学先の国の友人ができるとインターネットでは知り得ない文化や言い伝え、雰囲気を知ることができるので、現地の友人作りは大切です。

5-3. 留学を終えて

専攻しているデザインを日本と異なる環境で学べたことにより、1つのテーマや課題に対する解釈、要件の優先順位のつけ方、アプローチの多様性を肌で感じることができました。また、ヨーロッパの中で2つの国に連続で留学することによって、ヨーロッパの中でのデザインの違い、デザインのスタイルごとの長所と短所についてそれぞれ考える良い機会になりました。
国籍のアイデンティティについて悩んだり考えたりすることができたのも、1年間という長めの期間で留学したからこそ感じられたことだったと思います。